

第1回酒田市学校統合ビジョン懇話会 会議要旨

日 時 令和8年9月17日(木)午後6時30分～8時15分
場 所 酒田市役所7階 703会議室
出席者 同 懇 話 会 芝田史紀委員、池田浩委員、小野英男委員、工藤海蔵委員、
荒生妙子委員、加藤博之委員、石黒一起委員、今野誠委員、
石垣学委員、佐藤英喜委員
教育委員会 赤坂教育長、斎藤教育次長、庄司教育総務課長、菅原学校教育課長、
佐藤学校教育指導主幹、小林学区改編・義務教育学校整備主幹、
学区改編・義務教育学校整備室 大谷上席専門員、数馬主任
欠席者 同 懇 話 会 佐々木由子委員、田賀幸委員、杉山久仁明委員、齋藤学委員

1 開会

2 教育長あいさつ

3 酒田市学校統合ビジョン懇話会の設置について

委員／今日の話はいつから公表可能か。各自治会の集まりなどでこの話をしたい。地域の皆さんが興味を持っている内容だ。公表可能な時期が決まったら教えてほしい。

事務局／本日の会議要旨をホームページに掲載する際、本ビジョン(案)も公開する。公開可能なタイミングについては、後日お知らせする。

委員／この内容について出前講座などをお願いしたい。

事務局／本ビジョン(案)は今年度策定予定なので、来年度の出前講座のメニューへの追加を検討したい。出前講座の形でなくても、依頼があれば伺って説明する。

委員／このビジョン(案)についてまだ公表できない部分がある場合は、小中一貫教育についてもよいので、来年度を待たずに説明をお願いしたい。

事務局／形式や内容は個別に相談させていただきたい。その時点で可能な範囲で説明に伺うことはできる。

4 意見交換「酒田市学校再編ビジョン(案)について」

委員／統合後に閉校した校舎の管理や、学童保育所を集約することによって閉鎖する現在の各学童の建物の管理はどうなるのか。現在、小学校各所にある学童を中学校敷地内または近隣に整備するということだが、現在の学童の利活用および管理はどうなるのか。東陽小学校の跡地は、校舎はすでにないがグラウンドに雑草が生い茂っていて、地域で補助金をもらいながら草刈りをしている。地域の人が使えるように管理してほしい。

事務局／本ビジョン(案)では統合後の校舎は民間売却を基本としているが、実際には難しいこともあると思う。校舎がなくなれば普通財産として総務課で地域の皆さんに委託しながら管理している。また、校舎がある場合は教育総務課で草刈りなどの管理を行う。体育館やグラウン

ドなどの利活用もあるので、地域の要望を聞きながら検討していくことになる。

事務局／学童保育所については、学校の近くにないと管理上目が届きにくいと、学校敷地内またはその近隣に設置を検討することとしている。敷地上の条件が異なるので、具体的には個別に検討していくことになる。

委員／子どもの人数は減少傾向にあるが、学童利用者は年々増えている。学校統合により学区が広がると学童を利用する人数はさらに増えることが予想されるため、かなり大きな学童が必要になる。1つの大きな学童を設置するのか、あるいは別々な場所でいくつかに分けて運営することも考えられる。学校敷地または近隣に1つの学童を設置する場合は、保護者の送迎を考えると距離が遠くなるし、学童の利用時間も決まっているので、仕事を早く切り上げる、遅くなれば延長料金が発生するなど、保護者の負担が増えるのではないかと。

事務局／保護者のニーズを調査した上で、どのように学童を整備すべきか個別に検討したい。

委員／全国の同規模の自治体と比べて、酒田市の子どもの減り方はどうなのか。また人口減少を少しでも食い止めるためにどのような施策をしていて、これからどのような施策をしていくのか。子育て世代から来てもらわなければならないので、その世代に対する施策の財源確保が重要になる。飛鳥中と松山中が統合して東部中になったとき、松山地域からは学校に関わる仕事がなくなり、他の地域に引っ越した若い世帯もいた。子どもの減少は仕方ない状況だが、穏やかにするために何ができるか考えてほしい。

例えば、市内中学校で給食の調理室があるのは鳥海八幡中だけだが、統合後は他の中学校に合わせて鳥海八幡中の調理室をなくするのではなく、鳥海八幡中では自校給食の美味しい給食をウリにしていくようなことは考えられないか。

事務局／同規模の自治体との比較については、現在データ・資料はないが、一般的な感覚では地方都市は人口・子どもの減り方が速いと感じている。本市では人口減少がさまざまな課題の根源であると認識していて、人口減少を少しでも緩やかにするための施策を行っている。例えば、産業部門では雇用を増やす、女性や若者が活躍しやすい職場環境を促進する、関係人口を増やすなど。また、福祉・教育環境の整備など、市民が住み続けたいと思うような施策など全方位的に取り組んでいるが、人口減少を食い止めるほどの結果としてまだ難しい面もある。

委員／酒田市では不登校やいじめへの教育指導が見えてこない。義務教育学校になったらどのような指導を行うのか。

事務局／義務教育学校になることで一定の集団規模が確保され、異年齢交流を行ったり多様な人間関係が形成されたりすることにより、一人ひとりのコミュニケーション能力を高めていくことが考えられる。そのような経験から、他者を受け入れることを学ぶことで、いじめに対する教育活動につながると考えている。また、自分らしさを発揮できる環境づくりをすることで、不登校対策にもなると考えている。

委員／子どもが減少する状況にあつて、学校の統合・再編はやむを得ないと思う。ただ、学童について。昔は放課後はスポ少に通う子が多かったが、近年はスポ少に通わず学童に行く子が多いようだ。学童では宿題をやり、帰宅するとゲームをしているとのこと。親の共働きの影響

により送迎できないなどの理由で、スポ少に勧誘してもなかなか入ってもらえない。

学校を統合すると児童数は相当な数になるが、学校敷地内または近隣にそれほど多くの児童が入る学童を設置できるのか。また、学区が広がると通学距離が長くなる子も出てくるが、どうするのか。

事務局／例えば第四中学校区について、学童に関しては今後、所管課にて保護者アンケートをとる予定で、保護者のニーズを踏まえて方向性を検討する予定だと聞いている。通学については、スクールバス運行基準を踏まえ、該当する地区についてはバス停の位置など詳細な検討しているところ。

委員／学校は統合するとしても、例えば当面（５～６年程度）はそれぞれの学区で現在の学童を運営することを検討する必要があるのではないか。

事務局／学童の利用人数が何人になりそうなのか、それに応じた指導員を確保できるのかなど、まずは保護者のニーズを把握するためにアンケートを実施する予定だと聞いているので、その結果を踏まえて検討していくものと考えている。

委員／閉校後の学校施設の利活用について、どのように考えているのか。今までの利活用の事例を教えてほしい。例えば、東平田小学校跡地は老人施設になっているようだ。内郷小学校跡地、田沢小学校跡地はどうなっているのか。今後、東部中学校を活用して義務教育学校としたとき、松山小学校跡地はどうなるのか。お金をかけて校舎を整備したところもあるので、そこを使わなくなることにはモヤモヤしたのを感じる。

事務局／内郷小学校跡地はコミセンとして活用している。田沢小学校跡地は現在協議中。日向・大沢小学校跡地も、それぞれコミセンとして活用しているが、学校施設はコミセン利用には大き過ぎるため維持管理の費用がかかることから、今後はコミセン活用というより民間売却を検討してくものと思う。

委員／学校がなくなると地域のまとまりがなくなるので、コミセン活用が良いと思っている。一條地区では、小中学生がコミセン活動に参加してくれているが、学校統合によってそのつながりがなくなると地域の活力が失われるのでは。一方で、子どもの教育環境のために統合は必要だとも思う。実際、八幡地域では保育園が１つなので小学校も統合してほしい、義務教育学校になる時期を待てないという意見もある。

事務局／地域やＰＴＡへ説明をしていると、子どものことを考えると早く統合してもらいたいという声大きい。一方で、地域とのつながりがなくなることや心配する声もある。鳥海八幡中学校区では、現在鳥海小学校も含めて協議している。学校、地域、ＰＴＡの意見を伺いながら進めていきたい。

委員／日向・大沢小学校が八幡小学校に統合したときは、保護者の熱意で学校統合が進んだ印象があるので、ＰＴＡでもぜひ協議してもらいたい。

事務局／学校統合の話は行政が一方的に進められるものではなく、地域の要望がないと進められないので、地域やＰＴＡとの合意形成を図っていきたい。

委員／学校統合はありだと思う。日向・大沢小学校が八幡小学校に統合したときは、八幡地域

内だったため地域の理解を得やすかったと思うが、学区が広がると地域とのつながりがなくなる心配がある。しかし、子どもたちにとっては良いことだと思うので、統合には賛成。

委員／義務教育学校の設置に賛成する。かつて小学校で勤務した際、小学生は、中学生になると勉強が大変になるなど中学校生活に不安を抱いているようだったが、義務教育学校になることで小学生から中学生の姿が見えるようになる。また中学校で勤務した際は、小学6年生が小学校でリーダーシップを発揮してきた姿がわからなかったが、そのようなことを把握できるようになる。地域とのつながりなど課題もあると思うが、小中学校において児童・生徒と先生の間で顔の見える関係ができると、不登校の問題も含めて子どもたちにとってプラスになることが多いと思う。

委員／若浜小学校の校舎は古いので、地域では浜田小学校や二中に統合するのもありだと話題になったことがある。また、浜田小学区のうち六中に進学する駅東・旭新町あたりを二中学区に、泉小学区のうち一中に進学する北千日町～西野町・ゆたかの一部あたりを六中学区に改編するということだったが、通学距離が長くなる地域がある。泉小学区のその地域は、古くは五中に進学していたので、それだったら自治会や保護者と話し合った上で小学校区の学区改編をする（松陵小学区にする）という方法もあると思う。地域にはいろいろな思いがあると思うので、機械的に浜田小学区は二中学区、泉小学区は六中学区としない方法を検討する余地はあると思う。

松山地域で小学校統合したときは、内郷小学校の校舎がもったいないと思った。学校跡地の利用を考える必要がある。いずれ東部中学校で義務教育学校を設置することになれば、現在の松山小学校の校舎ももったいないと思うし、地域の火がなくなるようで切なく感じる。空き家対策で「こ家プロジェクト」が動いているが、旧三町地域に人を呼び込むことも一緒に考えたいと思った。

委員／田沢小学校は、統合当時は完全複式学級だった。小規模校には良さと課題がある。ただ、子どもの教育環境を考えると早く統合した方が良いということになった。新庄市の萩野学園では、義務教育学校となり1年生～9年生まで一緒にいることで、子どもたちが優しく成長するようになったり、子どもたち同士でいじめを解消する動きにつながったりしていると聞いている。萩野学園では、現在1年生～6年生で学年1学級となっているが、異学年交流などのさまざまな交流を工夫して取り組んでいるとのことだった。

義務教育学校を考える上で、地域に根差した小中一貫教育の推進が大事だと思っている。地域との関係が切れることが課題なので、地域と義務教育学校をつなぎ、地域の子どもは地域で育てる視点が大切である。

事務局／本市でも学校と地域のつながりを深めながら、子どもたちを地域全体で育てていく、スクール・コミュニティの取り組みを進めているところ。今後も一層力を入れていきたい。

委員／酒田市として、施設一体型の義務教育学校を目指すこと、また複式学級をなくし、児童・生徒の集団規模を確保した上で教育環境を整えることはわかった。しかし、小学校と中学校を統合するメリットが弱いと感じる。小学校同士・中学校同士の統合であれば、学童やスク

ールバスの問題が緩和するのでは。施設一体型の義務教育学校を目指すことの良さが、保護者にはわからない。例えば、義務教育学校にすることで小学6年生のリーダーシップを発揮する場面がなくなるのではないか。また、高校受験を控えた9年生がいつまでも前期児童の面倒をみることができるのか、前期児童にレベルを合わせることで、中期・後期生徒の伸び悩みにつながるのではないか。施設一体型の義務教育学校を目指すメリットについて、次回資料提供してもらいたい。

事務局／次回までに新庄市の事例などを調べた上で、施設一体型の義務教育学校の良さと課題、それに対する対応方法などについて、資料として示せるようにしたい。

以 上